

お元気ですか



心臓パートⅣ

南淵 明宏 41

「愛」とは何か素晴らしいものを生み出すこと。私のところへ心臓手術を受けるに來る患者さんを見ていると、本当にそのとおりでと思います。

どういふことかというところ、多くの患者さんが以前、私が手術した患者さんに勧められ、心を動かされ来院した、という方がほとんどだからです。かかりつけのお医者さんに勧められた、と

いう方もおられます。最近では「インターネットで調べた」という人も多くいらっしゃるようですが、患者さんが呼んできた患者さん、というパターンが一番多いように感じています。

「なんてったってあそこ

無限に連鎖して増殖

「愛」の伝播

のあの先生がいいわよ。絶対行きなさい！」

患者さんの熱い熱い善意が伝播して人を動かしている、というこの現象は「人の想いが何か良いものを生み出している」という点で

「愛」だと思います。

これは古代ギリシャの哲学者、プラトンの「饗宴」で説論されるところの「愛」の定義です。巫女ディオティマがそんなふうなソクラテスに語った、という話で、この考え方のオリジナルは

ツフの愛も、実はどこから放たれたものであるはずで、愛は無限に連鎖して増殖するもの、ということですから。愛なくして病院は成り立ちません。

企業がお客さんに相対する姿勢も同様ではないでしょうか。病院も企業も「もうかりまっか?」ではなく「愛を発信していますか?」であるべきなのです。

巫女ディオティマなのですが、世界中で「プラトニッククラブ」と呼ばれています。

患者さんがこういった愛を広めてくれる背景には、やはりその患者さんが入院に際して医療スタッフなどから受けた愛があるからでしょう。発信元の医療スタ



プロフィール

なぶち・あきひろ

奈良県立医科大学卒業。シドニーセント・ビンセント病院、国立シンガポール大学病院などを経て、2010年12月から品川区の大崎病院東京ハートセンターのセンター長。医学博士。